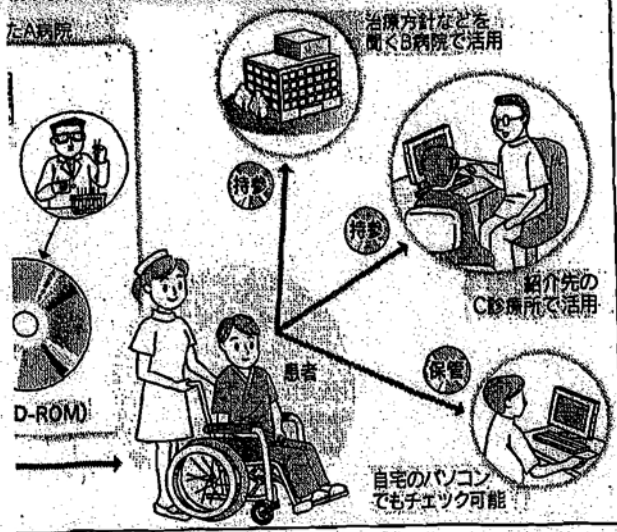


静岡県の診療情報提供システムのイメージ



機関、患者へCD-ROM



パソコンで医師の所見や検査データをチェックできる(静岡県の袋井市民病院)

袋井市、沼津市立病院(沼津市)の二病院が試験的に運用。今後、県内の病院にこのシステムを動かすソフトを無償で配布。どの病院でも提供できるようにする。「蓄積されていくデータを活用するため、医師は紹介状を書いた時間

**情報管理の徹底が必要**  
個人情報が含まれる病歴など診療情報の公開を進めるには、情報管理が課題だ。静岡

用ソフトを配布する計画だ。「超音波検査」5500円、「血液学的検査」1000円、「トヨタ記念病院」(愛知県豊田市)は、2003年の医療事務システム更新時に検査費用や技術料など診療報酬の点数(1点は10円)の明細を発行できるよう改良。患者に「意見、情報をフラスコ」(200)が電子メール(Elysium)で送られてきた。お住生(株) 職業、性別もお知らせする。高い金額を払っているのだから当然」と話す。

行される四ケタのパスワードが必要だが、パスワードは一回限定で五分以内に入力しないと無効という徹底ぶりだ。病名など医師の説明なしに聞くと、患者がショックを受ける診療情報もある。カルテ

診療記録 ITで提供

進む透明化 安心与える

患者が安心して治療を受けられるように、IT(情報技術)を活用して診療情報を提供。取り組みが大きく動き出した。静岡県では医師の所見や検査結果を記録したCD-ROMを患者に提供するシステムが始動。厚生労働省もこのシステムの全国展開を目指す。病院の窓口で薬剤や検査など個別費用の明細書を発行する施設も出てくる。ITが医療の透明化を後押ししている。

**紹介状とともに**  
患者の氏名と「診療情報提供書」と書かれた一枚のCD-ROM。パソコンにセットすると、画面には主治医の所見をまとめた紹介状に加え、「3月20日 カンター錠20mg 14日分」など「これまで処方された薬の一覧も、増減が一目で分かるグラフで白血球数など血液検査の結果が表示される。

「静岡県版電子カルテシステム」。患者が手術を受けた病院ではなく、通院しやすい診療所で治療を続けたいなど他の医療機関を受診する場合、従来からの紹介状とともに、診療情報を盛り込んだCD-ROMを電子紹介状として有償で提供する。開発ソフトが二倍になっており、紹介先の診療所のパソコンでCD-ROMに記録された検査結果を見ることが可能。「画像データを含め過去

「意見、情報をフラスコ」(200)が電子メール(Elysium)で送られてきた。お住生(株) 職業、性別もお知らせする。高い金額を払っているのだから当然」と話す。四月中旬にも希望する患者に有償でソフトと同内容の明細書を手渡す秋田市市民病院(秋田県秋田市)の森田真照院長は「患者が自分を受けた治療内容に関心を持つことで、より安全な患者参加型の医療を目指したい」と話す。国は来年度から「検査料」「投薬料」など項目ごとの小計が分かる領収書の発行を義務化する。同時に、希望する患者にレシート並みの明細書の発行に努めるよう求め、制度的にも治療内容ごとの費用の透明性が増す。

「患者代表として中務協委員を務める高校教師、勝村久司さんは「カルテの保管義務は五年だが、薬害肝炎のように何十年後に発症するケースもある。患者は治療内容にも関心を持った方がいい」と助言している。